

令和7年6月25日

学官地域の連携で国道276号喜茂別町相川の ビューポイントパーキングの魅力向上を検討

小樽開建と
共創



VPPに設置するファニチュアについて模型を用いて説明する北海道科学大学岩澤教授（写真左手前から2番目）

国道276号のうち倶知安町、京極町、喜茂別町を走るルートには、秀峰羊蹄山を雄大な姿を望むビューポイントパーキング（以下、VPP）が3か所あります。訪れる方々をもてなそうと、道路協力団体「支笏洞爺ニセコルート代表者会議」を構成する地域活動団体の方々が花植、草刈り、清掃などを行ったり、くつろげるウッドデッキやベンチなどの設置や維持管理を行ったりしています。また、各町の役場や小樽開建とともに道路景観の魅力向上に取り組んでいます。

昨年度からはこの取組に北海道科学大学も参画。同大学生が各町を訪れ、地域活動団体や行政機関とともに道路景観の診断や意見交換を行っています。

この日は、喜茂別町の相川 VPP に休憩設備として設置を検討する階段状のファニチュアについて、現地で関係者らが打合せを行いました。ファニチュアには、腰掛けて羊蹄山の眺めを楽しめる機能のほか、花を植えるプランターを配置して VPP 自体

を彩る機能を持たせる予定です。

最初に北海道科学大学工学部建築学科岩澤教授と同大学院生の半田さんが、設計図や模型を用いて、羊蹄山構造、材質及び設置方法について説明。地域活動団体代表の山本さん（NPO 法人きもべつ WAO 代表）をはじめ、喜茂別町、小樽開発建設部、一般社団法人北海道開発技術センターの職員らと、意見を交わしました。

相川 VPP では実際に設置する場所を確認しながら、具体的な位置や設置方法について検討。また、ファニチュアから眺める景色のイメージを共有しました。

今後大学で試作品の製作を行い、実際に現地に設置して関係者による検証を進めていきます。



国道276号喜茂別町相川 VPP に設置を検討する階段状のファニチュアの模型

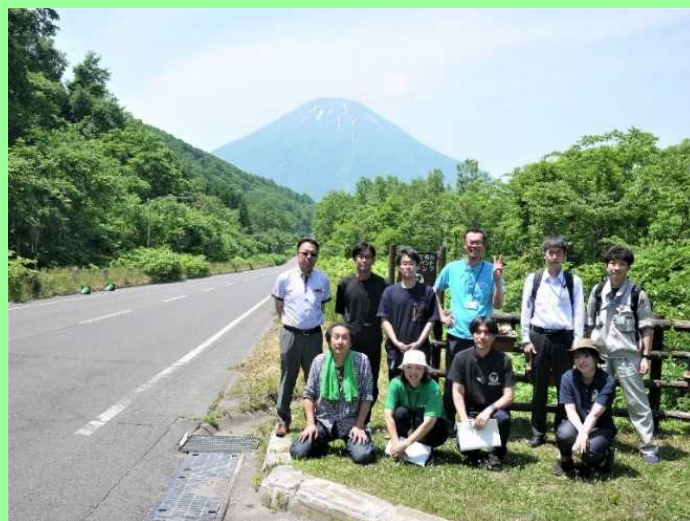


意見交換の中談笑する場面もありました

写真:NPO 法人きもべつ WAO 山本さん(左)
北海道科学大学 建築学科 岩澤教授(右)



相川 VPP で、実際に設置する場所を確認しながら、具体的な位置や設置方法について検討しました



現地での検討後、関係者らで記念撮影しました